

- For more records, click the Records link at page end.
- To change the format of selected records, select format and click Display Selected.
- To print/save clean copies of selected records from browser click Print/Save Selected.
- To have records sent as hardcopy or via email, click Send Results.

<input checked="" type="checkbox"/> Select All	<input checked="" type="checkbox"/> Clear Selections	<input type="checkbox"/> Print/Save Selected	<input type="checkbox"/> Send Results	<input type="checkbox"/> Display Selected	Format Free
--	--	--	---------------------------------------	---	----------------

1. ☐ 4/5/1 DIALOG(R)File 352:Derwent WPI (c) 2003 Thomson Derwent. All rts. reserv.

012984776

WPI Acc No: 2000-156629/200014

XRAM Acc No: C00-048745

Composition for treating keratin fiber in order to cure
degraded hair - comprises hydrogen peroxide or percarbonate and cinnamic
alcohol

Patent Assignee: KAO CORP (KAOS)

Number of Countries: 001 Number of Patents: 001

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
JP 2000016925	A	20000118	JP 98183855	A	1998063	200014 B

Priority Applications (No Type Date): JP 98183855 A 19980630

Patent Details:

Patent No	Kind	Lan Pg	Main IPC	Filing Notes
JP 2000016925	A	4	A61K-007/135	

Abstract (Basic): JP 2000016925 A

NOVELTY - Composition for treating keratin fiber, comprising
hydrogen peroxide or percarbonate and cinnamic alcohol.

DETAILED DESCRIPTION - Composition for treating keratin fiber,
comprising hydrogen peroxide or percarbonate and cinnamic alcohol.
Hydrogen peroxide or percarbonate is used in an amount of 1 to 6 wt %
and cinnamic alcohol is in an amount of 0.1 to 20 wt %.

USE - Useful for curing degraded hair.

Dwg. 0/0

JP 2000016925 A

NOVELTY - Composition for treating keratin fiber, comprising
hydrogen peroxide or percarbonate and cinnamic alcohol.

DETAILED DESCRIPTION - Composition for treating keratin fiber,
comprising hydrogen peroxide or percarbonate and cinnamic alcohol.
Hydrogen peroxide or percarbonate is used in an amount of 1 to 6 wt %
and cinnamic alcohol is in an amount of 0.1 to 20 wt %.

USE - Useful for curing degraded hair.

Dwg. 0/0

Title Terms: COMPOSITION; TREAT; KERATIN; ORDER; CURE; DEGRADE; HAIR;

COMPRISE; HYDROGEN; PER; OXIDE; PER; CARBONATE; CINNAMIC; ALCOHOL

Derwent Class: D21; E14; E36

International Patent Class (Main): A61K-007/135

International Patent Class (Additional): A61K-007/13

File Segment: CPI

Derwent WPI (Dialog® File 352): (c) 2003 Thomson Derwent. All rights reserved.

<input checked="" type="checkbox"/> Select All	<input checked="" type="checkbox"/> Clear Selections	<input type="checkbox"/> Print/Save Selected	<input type="checkbox"/> Send Results	<input type="checkbox"/> Display Selected	Format Free
--	--	--	---------------------------------------	---	----------------

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-16925

(P2000-16925A)

(43) 公開日 平成12年1月18日 (2000.1.18)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テマコード* (参考)
A 6 1 K 7/135		A 6 1 K 7/135	4 C 0 8 3
// A 6 1 K 7/13		7/13	

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号	特願平10-183855	(71) 出願人	000000918 花王株式会社 東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号
(22) 出願日	平成10年6月30日 (1998.6.30)	(72) 発明者	田端 佳子 東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会社 社研究所内
		(74) 代理人	100068700 弁理士 有賀 三幸 (外4名)
		Fターム (参考)	4C083 AB082 AB102 AB312 AB352 AB372 AB411 AB412 AC102 AC122 AC151 AC152 AC542 CC31 CC35 CC36 EE27 EE29

(54) 【発明の名称】 ケラチン質繊維処理剤組成物

(57) 【要約】

【解決手段】 (A) 過酸化水素及び／又は過炭酸塩、及び (B) ケイ皮アルコールを含有するケラチン質繊維処理剤組成物。

【効果】 毛髪などのケラチン質繊維の損傷を抑えつつ、より明るく脱色できる。

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 次の成分 (A) 及び (B) :

(A) 過酸化水素及び／又は過炭酸塩、(B) ケイ皮アルコールを含有することを特徴とするケラチン質繊維処理剤組成物。

【発明の詳細な説明】**【0001】**

【発明の属する技術分野】 本発明は、毛髪などのケラチン質繊維をより明るく脱色することができ、脱色処理によるケラチン質繊維の損傷を抑えることができるケラチン質繊維処理剤組成物に関する。

【0002】

【従来の技術】 通常、毛髪などを脱色する際には過酸化水素が用いられ、一般に酸化剤やアルカリ剤の使用量を増すことにより、より高い脱色効果を得ることができる。また、非常に高い脱色力が求められる場合には、過硫酸塩が併用される。しかし、これらの方法は、脱色処理に伴って、ケラチン質繊維の損傷をも増すことになる。このため、脱色処理に伴う損傷を抑制する方法や損傷から繊維を保護するための方法が種々提案されている。例えば、特開平 1-165514 号公報に示されるようなクリームベースを用いたり、特開平 4-164018 号公報、特開平 7-33630 号公報、特開昭 55-4384 号公報に示されるように特定のカチオン界面活性剤やシリコン誘導体、カチオンポリマーを配合する方法が挙げられる。また、特開昭 55-85512 号公報や特開平 4-279514 号公報に示されるように特定の塩を配合することによって、より低い pH で脱色力を得る方法も提案されている。

【0003】 しかし、カチオン界面活性剤やシリコン誘導体、カチオンポリマーを配合する方法は、ケラチン質繊維がうける損傷を本質的に減らすものではなく、経日で損傷感が現れるのを免れないなどの欠点がある。また、特定の塩を配合することによって、より低い pH で脱色力を得る方法も、塩の配合によってアルカリ剤量が増加するため、損傷を抑えるには未だ不十分である。

【0004】 このように、脱色処理によるケラチン質繊維の損傷を抑えるため、更に改善された方法が望まれていた。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】 本発明の目的は、毛髪などのケラチン質繊維の損傷を抑えつつ、より明るく脱色できるケラチン質繊維処理剤組成物を提供することにある。

【0006】

【課題を解決するための手段】 本発明者は、組成物中にケイ皮アルコールを配合すれば、酸化剤やアルカリ剤の使用量を増やさずに、毛髪などのケラチン質繊維をより明るく脱色することができ、しかも脱色処理によるケラチン質繊維の損傷が抑えられることを見出し、本発明を

完成した。

【0007】 すなわち本発明は、次の成分 (A) 及び (B) :

(A) 過酸化水素及び／又は過炭酸塩、(B) ケイ皮アルコールを含有することを特徴とするケラチン質繊維処理剤組成物を提供するものである。

【0008】

【発明の実施の形態】 本発明のケラチン質繊維処理剤組成物は、成分 (A) として過酸化水素及び／又は過炭酸塩を含有するが、過炭酸塩としては、過炭酸ナトリウム、過炭酸カリウム等が挙げられる。

【0009】 成分 (A) の配合量としては、過酸化水素に換算した場合、全組成中に 1～6 重量%が好ましく、2～5 重量%がより好ましい。

【0010】 成分 (B) のケイ皮アルコールの配合量としては特に制限されないが、ケラチン質繊維の損傷を十分抑制し、また他の成分の配合量を十分確保するという処方自由度の観点から全組成中 0.1～20 重量%配合するのが好ましく、特に 0.2～10 重量%配合するのが好ましい。

【0011】 本発明のケラチン質繊維処理剤組成物は、1 剤式のほか 2 剤式あるいは 3 剤式とすることも可能である。2 剤式又は 3 剤式とする場合、通常所定の重量比で混合した後使用され、この場合の成分 (A) 及び

(B) の配合量は、混合した組成物中の含有量が上記の範囲内であればよい。

【0012】 本発明組成物には、上記必須成分の他、染料を配合することにより脱色と同時に染色を行うこともできる。

【0013】 染料としては、酸化型染毛剤に使用される公知の顕色物質及びカップリング物質を用いることができる。このうち顕色物質としては、例えば p-フェニレンジアミン、p-トルイレンジアミン、N-メチル-p-フェニレンジアミン、N, N-ジメチル-p-フェニレンジアミン等の p-フェニレンジアミン類；2, 5-ジアミノピリジン誘導体；p-アミノフェノール、2-メチル-4-アミノフェノール等の p-アミノフェノール類、o-アミノフェノール類、o-フェニレンジアミン類等が挙げられる。カップリング物質としては、例えば α-ナフトール、o-クレゾール、m-クレゾール、2, 6-ジメチルフェノール、4-アミノフェノール等が挙げられる。

【0014】 これら顕色物質及びカップリング物質は、それぞれ 1 種又は 2 種以上を組合わせて用いることができ、その配合量は特に制限されないが、全組成中に 0.01～20 重量%、特に 0.5～10 重量%配合するのが好ましい。

【0015】 本発明組成物は、更に直接染料を配合して付加的に毛髪の色合いを変化させることもできる。このような直接染料としては、例えば日本ヘアカラー工業会

発行の染料原料基準に記載のもの、具体的には2-アミノ-4-ニトロフェノール、2-アミノ-5-ニトロフェノール、塩酸ニトロ-p-フェニレンジアミン、ニトロ-p-フェニレンジアミン、p-アミノフェニルスルファミン酸、p-ニトロ-o-フェニレンジアミン、ピクラミン酸、ピクラミン酸ナトリウム、ピクリン酸、クロムブラウンRH、ヘマテイン、硫酸ニトロ-p-フェニレンジアミン、硫酸p-ニトロ-o-フェニレンジアミン、硫酸p-ニトロ-m-フェニレンジアミン、1-アミノ-4-メチルアミノアントラキノン、1,4-ジ

10

【0016】本発明のケラチン質繊維処理剤組成物中には、上記成分の他次の成分を本発明の効果を損なわない範囲で加えることができる。このような任意成分としては、例えば炭化水素類、ロウ類、動植物油脂、天然又は合成の高分子、高級アルコール類、高級脂肪酸類、有機溶剤又は浸透促進剤、多価アルコール類、エステル類、エーテル類、カチオン性界面活性剤、アニオン性界面活性剤、両性界面活性剤、非イオン性界面活性剤等の界面活性剤、シリコン類、蛋白誘導体及びアミノ酸類、防腐剤、キレート剤、安定化剤、酸化防止剤、その他植物抽出物、生薬抽出物、ビタミン類、色素、香料、顔料、紫外線吸収剤等が挙げられる。

20

【0017】本発明品のケラチン質繊維処理剤組成物は、通常の方法に従って製造することができ、その形態は特に制限されず、例えば、透明液状、乳液状、クリーム状、ゲル状、ペースト状、エアゾール、エアゾールフォーム状等とすることができる。

【0018】本発明のケラチン質繊維処理剤組成物のpHは7~11、特に8~10が好ましい。

30

【0019】

【実施例】以下に例を挙げて、本発明を更に説明する。なお、以下の実施例において、毛髪は日本人20代女性の化学処理を行ったことのない黒髪で重さ10gの毛束を作成し、シャンプー、すすぎ、ドライヤー乾燥を行ったものを用いた。

【0020】実施例1~4及び比較例1~4

表1に示した第1剤、第2剤、第3剤をそれぞれ調製し、使用直前に所定の比率（重量比）で充分に混合した。10gを毛束に塗布し、なじませてから室温で20分間放置した。その後、流水で充分すすいでからシャンプー・リンスし、すすぎ後、ドライヤーで乾燥して、仕上がりの明るさ及び処理後の毛髪の状態について下記基準により評価を行った。

【0021】（1）仕上がりの明るさ

対応する実施例と比較例の毛束の明るさを目視で比較した。

（2）処理後の毛髪の状態

ばさつき；

○；未処理毛と差を感じない。

△；未処理毛に比べて、ややばさつく。

×；未処理毛に比べて、明らかにばさつく。

指通り；

○；未処理毛と差を感じない。

△；未処理毛に比べて、やや指通りが悪い。

×；未処理毛に比べて、明らかに指通りが悪い。

なめらかさ；

○；未処理毛と差を感じない。

△；未処理毛に比べて、ややなめらかさが劣る。

×；未処理毛に比べて、明らかになめらかさが劣る。

【0022】

【表1】

成分(重量%)		実施例	比較例	実施例	比較例	実施例	比較例	実施例	比較例
		1	1	2	2	3	3	4	4
第1剤	アンモニア水(28%)	5.0	5.0	6.0	6.0			5.0	6.0
	炭酸水素アンモニウム	3.0	3.0			35.0	35.0		
	過炭酸ナトリウム					30.0	30.0		
	ケイ皮アルコール					30.0	30.0		
	モノエタノールアミン	5.0	5.0	5.0	5.0			3.0	4.0
	エタノール	5.0	5.0	5.0	5.0			5.0	5.0
	プロピレングリコール	1.0		1.0				5.0	5.0
	無水炭酸ナトリウム					5.0	5.0	1.0	
精製水		81.0	82.0	83.0	84.0			81.0	80.0
合計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
第2剤	過酸化水素	5.7	5.7	5.7	5.7	5.7	5.7	5.7	5.7
	エタノール					5.0	5.0		
	ケイ皮アルコール					0.5			
	精製水	94.3	94.3	94.3	94.3	88.8	89.3	94.3	94.3
合計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
第3剤	過炭酸アンモニウム			5.0	5.0				
	過炭酸カリウム			75.0	75.0				
	ケイ皮アルコール			10.0	10.0				
	無水炭酸ナトリウム			10.0	10.0				
合計				100.0	100.0				
混合比	第1剤	1	1	2	2	1	1	1	1
	第2剤	1	1	4	4	4	4	2	2
	第3剤			1	1				
(1) 仕上がりの明るさ		実施例1のほうが明るい		実施例2のほうが明るい		実施例3のほうが明るい		同 等	
(2) 処理後の毛髪の状態 ばさつき 指通り なめらかさ		○ ○ ○	× △ △	△ ○ △	× × ×	○ ○ ○	× × △	○ ○ ○	× × ×

【0023】実施例5及び比較例5

表2に示した第1剤、第2剤をそれぞれ調製し、使用直前に所定の比率(重量比)で充分に混合した。10gを毛束に塗布し、なじませてから室温で所定の時間放置した。その後、流水で充分すすいでからシャンプー・リンスし、すすぎ後、ドライヤーで乾燥して、仕上がりの明るさ及び処理後の毛髪の状態について実施例1～4及び比較例1～4と同様に評価を行った。

【0024】

【表2】

成分(重量%)		実施例5	比較例5
第1剤	アンモニア水(28%)	6.0	6.0
	炭酸水素アンモニウム	3.0	3.0
	塩化アンモニウム	2.0	2.0
	エタノール	5.0	5.0
	プロピレングリコール	5.0	5.0
	ケイ皮アルコール	1.0	
	精製水	87.0	88.0
	合計	100.0	100.0
第2剤	過酸化水素	5.7	5.7
	精製水	94.3	94.3
合計		100.0	100.0
混合比	第1剤	2	2
	第2剤	3	3
処理時間		20分	30分
(1) 仕上がりの明るさ		同 等	
(2) 処理後の毛髪の状態 ばさつき 指通り なめらかさ		○ ○ ○	× × ×

【0025】実施例6及び比較例6

表3に示した剤をそれぞれ調製し、1gを毛束に均一に噴霧し、なじませてから、ドライヤーで乾燥し、室温で12時間放置した。その後、シャンプー・リンスし、すすぎ後、ドライヤーで乾燥する過程を、所定の回数繰り返した後、仕上がりの明るさ及び処理後の毛髪の状態について実施例1～4及び比較例1～4と同様に評価を行った。

30

【0026】

【表3】

成分(重量%)		実施例6	比較例6
過酸化水素 エタノール ケイ皮アルコール 精製水 合計		3.0	3.0
		5.0	5.0
		1.0	
		91.0	92.0
		100.0	100.0
処理回数		3回	5回
(1) 仕上がりの明るさ		同 等	
(2) 処理後の毛髪の状態 ばさつき 指通り なめらかさ		○ ○ ○	× × △

【0027】

【発明の効果】本発明のケラチン質繊維処理剤組成物によれば、毛髪などのケラチン質繊維の損傷によるばさつきを抑制し、指通りやなめらかさを失うことなく、より明るく脱色をすることができる。